

### 第3回常盤湖を考える市民委員会

日時：平成23年11月30日（水）18：30～20：00

場所：ときわ湖水ホール ミーティングルーム

1. 会長挨拶	
2. 動物園等における飼養鳥に関する高病原性鳥インフルエンザへの対応指針について 常盤公園高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアル及び現在の常盤公園の飼養鳥類の状況について報告	
＜質疑応答＞	
委員	車のタイヤの消毒はどういう方法ですか。
事務局	去年は消石灰をまいたが、タイヤが消石灰を引っ張ってかなり汚れが目立った。観光施設ということを考慮し、今年はタイヤ専用マットを用い、マットに消毒液を入れて車が通ったら自動的に消毒できる形にする。
委員	タイヤが1周以上回らないと。
事務局	車専用に使われたもので長さは十分ある。
委員	ペリカン島全体をネットで覆うということだが、ネットでインフルエンザに対応できるのか。完全密閉が一番理想的だが、ネットで感染が防げれば費用も安くあがるので、それが一番いいとは思いますが。
事務局	ペリカン島は陸続きではないので他の野生動物の侵入は考えられないため、野鳥との直接的な接触を防ぐためにネットを張る。水などを介しての感染も考えられるが、かなりリスクは下がると考えている。感染リスクの高い半年間の隔離が必要なため、今まで恵まれた環境で飼育されていた鳥にとっては、完全に閉鎖された環境では負担が大きい。総合的に判断をした結果、やはりペリカン島で飼うのが一番いいだろうと考えた。通常は放し飼いをし、リスクが高い季節については、野鳥と接触を防ぐための施設を整えた中で飼養していきたいと考えている。
委員	水を介した感染は可能性としては非常に低いということでもいいのか。
事務局	そのあたりは、専門家のほうが詳しいとは思いますが、網で二重に接触を防ぎ、距離を取ることで、水を介した感染はかなり抑えられるのではないかと考えている。
委員	専門家の意見はどうか。
委員	水を介した感染のリスクはゼロとは言えない。網の中に入れることがいいことなのかどうかはわからないが、少なくとも感染症の

	立場から言うと、ペリカンが外へ飛んでいかないのが大変重要なことだと思う。
委員	以前、白鳥がいたときに、湖の周りを掃除した水が湖に流れ込んでいた。水を介しての感染があるならば、野鳥の糞が含まれているかもしれない水を湖に流し込んでよいのか。
委員	以前はユリカモメ、カワラバト（いわゆるドバト）が白鳥湖周囲にたくさん糞を落としており、それを確か1日おきぐらいに水で清掃していた。流水で清掃しているので、湖に水を流さないという対応は難しいのではないか。 ドバトは伝書鳩が逃げたりしたものがほとんどであり、これが野鳥に含まれるのかという点にも議論がある。一応カワラバトということで野鳥には入れており、現実的には他の野鳥と接触することもあるが、ニューカッスル病などに関してはリスクは高いものの、インフルエンザについてのリスクはカモ類に比べると低いのではないか。
委員	4月の第1日曜日のさくらまつりには、膨大な数の車が来るが、その頃にはタイヤ消毒の対策は十分にできているのか。まだ冬鳥のいる時期だが。
委員	対応できるだけの消毒液もマットも準備している。
委員	あちこちから車が来るが大丈夫なのか。
事務局	消毒液は目に見えて補給ができ、また、マットの上を走るのでもそれほど障害にならない。消石灰は雨で流れ、またこびりついて後の掃除が大変であり、観光地として印象が悪い。このため、消毒液とマットを用いることに決まった。リスクの高い時には常について消毒液を補給していく。その対応はきっちりやりたい。
委員	消毒の実施期間は1月、2月、3月とするなど、月で決めているのか。
事務局	消毒マットを設置するのは周辺に発生した場合、及び国内複数箇所が発生した場合であるため、発生しなければ消毒マットは設置しないことになる。
委員	1月2月になったら必ずやるというものではないと。
事務局	そういう形になっている。
委員	常盤公園は今まで、ペリカンが自由に飛ぶ姿が素晴らしいということで全国でも有名になってきたわけだが、今後はこれができる可能性が低くなる。また、今までの鳥インフルエンザ対策に伴い、7羽のペリカンが亡くなっている。ネットを張った場合、ペリカンが夜間に何らかの形でびっくりして、ネットにぶつかって事故死する可能性もある。インフルエンザの感染リスクとどちらが大きいのかはわからないが、そういうリスクがあることは知ってほしい。
委員	第1回の会議の時には、8割、9割方の委員が白鳥を戻したいと

	<p>という意見だったと思うが、インフルエンザの怖さ、感染のルート、学識経験者の意見を聞いて、皆が白鳥を飼うことに対して躊躇し、マイナス意見の方に進んでいる気がする。それでは夢も希望もない。</p> <p>リスクは確かにあるが、いま対策を練り、マニュアルを作り、学識経験者の意見も聞いている。知恵を出し、白鳥を飼うためにはどうしたらいいのかを考え、すぐには言わないが、10羽でも20羽でも、試験的にでも白鳥を入れて復活したい。夢のある常盤湖にしたい。</p> <p>今シーズンはペリカンの状況を見て、今のネットで冬越しができれば、白鳥でもできるということになるかもしれないため、この市民委員会の中で、白鳥については将来様子を見ながら再審をするという項目を入れてほしい。</p>
<p><b>3. 討議</b></p> <p>これまでの意見整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥インフルエンザがどうなるか数年様子を見た方がよい</li> <li>・ 教育の観点から動物とのふれあいが大切</li> <li>・ 再度白鳥を飼って欲しい、飼う方法を前向きに検討したい</li> <li>・ 今のまま、自然の状態でよいのではないか</li> </ul>	
<p>委員</p>	<p>今までの意見や今日の指針から、白鳥を飼うチャンスが少しでてきたのではないかという気がしている。もう1回全員に、今後の常盤公園での白鳥を含めた鳥類の飼育のあり方、方向性、意見を聞きたい。</p>
<p><b>&lt;市民委員の意見&gt;</b></p>	
<p>委員 (市民)</p>	<p>本当に白鳥が大好きで、ずっと白鳥の案内をしていた。飛行機と一緒に案内していた飛ぶペリカンの素晴らしい景色を思い出し、飛ぶペリカンがいなくなるということが寂しくなった。</p> <p>白鳥に関しては、少しでも可能性があれば努力したい。常盤公園の飼育員たちに大変な迷惑をかけることにはなるが、今日の会議で少しあかりが見えた気がする。</p>
<p>委員 (市民)</p>	<p>白鳥復活を願っているが、今はまずペリカンと公園内の鳥や動物を高病原性鳥インフルエンザから守ることが第一と思う。冬はペリカンを分離飼育して、ここ数年は様子を見る必要があると思う。また、鳥インフルエンザの防疫はもちろん、対応マニュアルを定めて、管理体制をより強化し、鳥インフルエンザについての知識等を高めていき、常にあるリスクを少なくする必要があると思う。</p> <p>その中で、例えば白鳥の復活ということになれば、管理しやすい少数から始め、11月から5月の間は屋根で覆った別棟などで飼育し、渡り鳥が少なく湖の水温も上がってウイルスも少なくなる6月には湖に移し、11月になったらまた分離飼育場に戻し</p>

	<p>てはどうか。冬期と夏期に分けた飼育方法にしなければ、今後はとても飼育できるような状態ではないと思う。</p> <p>しかし、リスクがあるからだめということであれば何もできない。多少の感染リスクを背負いつつ、白鳥を復活させるには、まずペリカンでの分離飼育に注目していきたい。このペリカンの分離飼育が成功すれば、白鳥復活に一步近づくことになると思う。</p>
委員 (市民)	<p>幼稚園に遊びに行ったカッタくんのようなペリカンが今後見られなくなるのは寂しい。ペリカンを飼育してマニュアルを作って、今度は白鳥が少しでも常盤湖に泳いで欲しい。以前撮っていた白鳥の写真を見ると、赤ちゃんを連れて泳いでいるのがすごくかわいい。そういう風景をまた見たい。</p>
委員 (市民)	<p>マイナス思考ではなくて、皆の知恵を出し、一步でも二歩でもとにかく復活しようという方向に進めたい。飼うのを止めようというマイナスではなくて飼ったときにはどうなるか、リスクはどうなるのだろうかと考えたい。10羽でも5羽でもいいので、実験的にでも進めていく必要があるかと思う。せっかく常盤公園で今まで何十年も飼育したスタッフもいるので、これを活かす方法を考えたい。他と違ってやはり宇部の常盤公園というのは優秀な飼育場だと思う。だからこういう会議ができると思うのでぜひ活かしてもらいたいと思う。</p>
<p>&lt;関係団体の委員の意見&gt;</p>	
委員 (関係団体)	<p>乱暴な言い方だが、マイナス思考でいくか、プラス思考でいくのかということである。できない理由を挙げればたくさんあるが、何とかやろうとすれば知恵も出る。マンホールの蓋には白鳥が描かれており、常盤れまんや白鳥サブレなど白鳥のお菓子を作っているところもある。歌もあるし、白鳥をイベントの時にいまだに使ったりしており、市民にも定着している。ぜひ、白鳥を飼う方向で検討して欲しい。同時に白鳥を活かして活性化できないかどうかを考えたい。常盤公園に今から白鳥が残るとすれば希少価値が出るかもしれないので、できれば少しでも残すという方向で考えたい。時期については、様子を見るという考え方もあるし、数羽でも実験的にやってみようという考え方もある。</p>
委員 (関係団体)	<p>338羽の白鳥などを殺処分したということを重く受け止めており、同じことの繰り返しは決してしたくない。あとに続く若い飼育員たちにも同じことの繰り返しは決してさせてはならないと思っている。やって欲しいという皆の要望があれば、もちろんリスクを背負いながら飼育していくことも考えていかないといけないが、鳥インフルエンザは、自然災害と一緒に忘れた頃にまた来るといふのがある。ひとつにはワクチンの問題があり、</p>

	<p>将来的にワクチンが可能になれば、このような心配はなくなり、白鳥を飼うこともいいと思う。もうひとつはやはり殺処分ということの重さであり、殺処분을完全になくすということは、恐らくこのインフルエンザがずっと続く以上はありえない。とにかく早くワクチンが接種できるようになればと思うが、現状では無理である。この先にワクチンの可能性があるかどうかは、専門家に聞いてみるのもいいのではないかと思う。</p>
<p>委員 (関係団体)</p>	<p>ボランティアガイドのイベントの途中でペリカンが7、8羽ちょうど頭上を飛び、ペリカンが飛んでいてよかったと思った。また、ペリカンたちが塊になって湖面に浮いている様子をひさしぶりに見てとても嬉しかった。白鳥がいない今、やはりペリカンは本当に大きな存在。これを白鳥のようなことにさせたくはないし、いろんな形で市の職員もがんばっているのだから、とにかくペリカンを生かしてやることを第一に考えて、それがうまくいけば次は白鳥も戻してやりたい。常盤湖には白鳥とペリカンがいるのが当たり前のようになっているので、ぜひとも白鳥も帰って来て欲しい。</p>
<p>委員 (関係団体)</p>	<p>今までの話をだいたいまとめると、やはり「白鳥復活」ということだと思う。今回、国と市の指針を見ると、まったく飼う可能性がゼロではない。確かにリスクはあるが、飼うチャンスがあるということを感じた。もちろん今すぐというわけではないが、一番大切なのは「白鳥を復活させよう」という気持ちをずっと持っていくということである。それには当然時期もあるし、今からいろんな対策も練っていくという形がいいと思う。</p>
<p>&lt;学識経験者の委員の意見&gt;</p>	
<p>委員 (学識経験者)</p>	<p>この会議の期間中に、国の指針が出たことによって考え方が当初と随分変わった。この指針がもう1年早く策定されていたらなと思えてならない。昨年度の白鳥類の殺処分の感覚とは大きく違い、今回の指針は当初考えていたよりもかなり緩和されている状況である。感染したものが殺処分されるのはやむを得ないが、そうでないものについては必ずしも殺処分しなくてよく、次元が変わってはいないが、指針に従う限りは、常盤公園に白鳥を飼育する可能性は否定的ではないと感じる。ただ、今までの経緯を考えると、この指針に沿って今すぐに少しずつでもやっていこうかとなるかという、やはり慎重を期した方がいいと思う。飼育の仕方で感染の仕方が変わることであれば、今から白鳥を飼う場合には、常盤湖をどう分けてどういうところから飼い始めるかを考える必要がある。もうひとつは、鳥類における鳥インフルエンザの感受性、要は感染してどの程度発症して死んでしまうのかである。例えばニワトリだと極めて高率に感染・発症するというので、全体的な殺処分が行わ</p>

	<p>れるが、鳥類すべてがそうではない。常盤公園ではペリカンや白鳥、また白鳥の中にもコブハクチョウやコクチョウなどの種類がいる。もしこれらの感受性の違いが分かるのであれば、ここ数年慎重を期す間を、どういう飼い方をしたら対処できるか、どういう種類の白鳥を飼えば多少なり発症率が違うか、ということの研究する時間に充てて、今度飼い始める時に少しでも危険性を少なくする。1羽でも感染する鳥を少なくし、再度、白鳥湖を目指す。そうすれば、ある程度の希望が持てるという感じは持った。</p>
<p>委員 (学識経験者)</p>	<p>近々白鳥を飼える時期が来ると思っている。これまでに長い間猛威を振るい続けた感染症はない。例えば先程委員が言っていたワクチンだが、いま高病原性のウイルスが今後普通のウイルスになれば、ワクチンを打てるような時代になるだろう。そのようにウイルスの動向を監視していけば、白鳥も飼うことができるかもしれないところである。</p> <p>環境省の指針に沿う限りでは白鳥は飼える。病気になったらその個体だけを殺処分して、あとは経過観察すればいいということ。ただ、飼育員や毎日動物を見ている人の気持ちを考えると、同じ殺処分は繰り返してはいけないと思う。繰り返したら、もう二度と常盤公園で白鳥を飼えなくなるという意見が出てくるのでは。ただ感染症がずっと強い感染症であり続けることはない。また、今年も高病原性鳥インフルエンザが流行する可能性が高いというのは研究者の見解で、実際は来ない可能性もある。今年は様子を見て、来年もう1回反省をする機会を設けて検討しながら、決して希望をなくさずに、また白鳥を飼う方向で考えては。</p> <p>怖い病気は決して高病原性鳥インフルエンザだけではなく、ニューカッスル病なども国内に普通にあるので、それらへの対応も併せて今後していけばいいと思う。</p> <p>専門家の立場からも鳥インフルエンザが猛威を振るい続けることはずっと続くことはないと考えている。</p>
<p>関係行政機関 (学識経験者)</p>	<p>いつか白鳥を飼える日が来てくれるといいと思っている。そのためにも、ワクチンの問題などをここ数年は見なければいけないと思う。現状では野鳥からたくさんのウイルスが来ており、状況は昨年度と変わっていないと考える。実際、常盤湖には多くの野鳥が飛来しているという実態があるため、今の時点で白鳥を飼うのは難しいのではないかと考えている。</p> <p>また、環境省の指針は、飼養鳥の放し飼いをしないということが一番の前提になっている。環境省では野鳥からのウイルス侵入を非常に危険視しているため、野鳥対策がなされた上での指針だということを理解してほしい。</p>

	<p>いろいろな形の分離飼育の問題もあるが、そういうものを少しずつクリアしていった道が開けるのではないかと思う。</p>
<p>関係行政機関 (学識経験者)</p>	<p>まず、今回環境省の飼育鳥に関する指針が出て、それを基にマニュアルを策定するのに、宇部市と中部家畜保健衛生所とでいろいろ協議した。2004年に阿東町の家きんで高病原性鳥インフルエンザの発生があった時には、国内では79年ぶりの発生ということで、当時しっかりしたマニュアルがなかったため、試行錯誤の中で本邦初という感じで対応した。その当時の我々がやってきたことが今の家きんの指針（高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針、農林水産省）になっている。去年は常盤公園を含めて国内3箇所で、飼養鳥における鳥インフルエンザが出ている訳だが、今この環境省の指針をよく見てみると、去年の発生で実施された対応が土台になって指針ができていたと感じた。</p> <p>次に、白鳥復活という話について。昨年4月から口蹄疫が宮崎で出て、たくさんの牛が殺処分になったが、現在は消毒した上であちこちで飼養が復活されている。具体的には、おとり牛といって、最初少数の牛を飼って安全ということを確認してから、飼育数を増やすというようにしている。何年先になるかわからないが、そのようなことも白鳥復活の際には参考にしたらよいのではないか。</p>
<p>&lt;自由討議・質疑応答等&gt;</p>	
<p>委員</p>	<p>だいたい、委員と学識経験者からお話を聞いた。</p> <p>まず、白鳥を復活させていく方向で考えるということが第一と思う。ただ、この委員会では、常盤公園での鳥類の飼育方法を検討すると最初の目的にも書いてあるが、これはなかなか一般市民では分からない部分があるので、当然学識経験者の意見を聞きながら進めていく。</p> <p>その大前提となるのが、今いるペリカンを今後ネットで飼育していくという話である。夏場と冬場に分けて飼育し、その中で出てくる弊害も含めて様子を見ることが、白鳥を今後復活させる重大なテーマになる。</p> <p>まだ今年の冬にネットを張るというわけではないので、来年ぐらいか、様子を見てからでも、白鳥を復活させるということをして事前に市民に訴えていけば、時期が早かろうが遅かろうが十分にみんながついていってくれるし、希望も持てると思う。そういう方向で行くということを示しながら、飼育方法を考え検討していきたい。</p> <p>ペリカンについて事務局の方で補足はあるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど説明したが、今はまだペリカン島に飛行できるペリカンがいる。強引に捕獲すると逃げていく恐れがあるため、慎重に</p>

	<p>やっている。捕獲したペリカンは動物園においてある防鳥ネットを張った施設に移している。</p> <p>来年度については、高病原性鳥インフルエンザの感染リスクが高くなる季節の前に、常盤湖のペリカン島に大規模なネットを設置したいと考えている。</p>
委員	<p>季節による気温の変化、湖の水温の変化、渡り鳥の渡ってくる数量など様々なものを、今後数年、白鳥が準備できるまでの間に調査してもらいたい。今挙げた以外にも他に色々な条件があると思うが、リスクを少しでも小さくするような準備をこれからしてもらいたい。</p>
委員	<p>白鳥をネットで飼うことは問題ないのか。</p>
委員	<p>白鳥は飛べないようにするので、ネットの中で飼育することはできるが、どこにネットを張るかという問題がある。</p>
委員	<p>バードケージが設置できれば一番よいが、それは難しいだろう。夏場は放し飼いにして、鳥インフルエンザの危険な時期になればどこかを仕切って飼育することもできるのでは。</p>
委員	<p>野鳥との接触を避けるためにペリカンのところも金網を張るが、水面下からもぐって入ってくる鳥もいる。カワウなどは2mぐらいは十分潜る。</p>
委員	<p>皆、白鳥が欲しいと思っている。ビジョン、計画をしっかり立てケージを作るのにこれだけ経費がかかると提示し、予算的にも市に頼らず、例えばみんなで100円募金でも200円募金でもしては。計画さえしっかり立てれば、宇部の人みんな大賛成してくれると思う。この会議で希望が持てた、白鳥が飼えるかもしれないという方向性があるだけでもよかったと思ってもらえる。</p>
委員	<p>要は期待が持てるんだということがわかれば、みんなは待てる。宇部市と言え白鳥ということでシンボルマークに白鳥が入っている会社などがあるが、白鳥がもういないので、シンボルマークを作り替えたというところもある。しかし、とりあえず待てば可能性があるということになれば、すぐには飼えなかったり時期がわからないとしても待てると思う。そういう気持ちが大事なことだと思う。</p>
委員	<p>それなら今いるペリカンをしっかり飼育して、いい結果を残していかないと厳しいと思う。飼育員は大変だろうと思うが、ぜひいい方向に進めてもらいたい。</p>
委員	<p>ペリカンの分離飼育に成功すれば、市の税金を使わなくても市民の募金でできると思っている。</p>
<p>&lt;答申の内容について&gt;</p>	
委員	<p>できればこの3回で答申をまとめて答申したいと思っていた。方向性としては白鳥を近い将来復活させたい。それに対しての</p>

	<p>飼育方法を学識経験者、市、あるいは関係各位で検討し、すべての方法を前向きに取り組んでいく。それにはまずペリカンの飼育をしっかりとってうまく飼育を成功させたい。そういう形で答申をしていきたい。</p> <p>募金の話は、白鳥復活募金ということであればそれ相応のものが集まるだろうと思うが、それはそういう方法もあるということで付属して付けたいと思う。あとは事務局のほうでうまくまとめて欲しい。</p> <p>今年の2月のようなことが二度とないように、100%リスク回避は難しいが、ある程度は可能というレベルになった時には是非復活させたいと思うので、協力してほしい。</p>
4. 局長挨拶	
5. 会長挨拶	